

令和2年度(2020年度)陸奥湾マダラ稚魚分布調査結果について

2020年4月24日～25日、5月12日～13日、6月2日～3日の3回、それぞれ陸奥湾の8調査点で試験船青鵬丸(65トン)のオッタートロール海底曳によるマダラ稚魚の分布調査を行いましたので、結果をお知らせします。

マダラ稚魚の採捕個体数は、4月は55個体、5月は378個体、6月は23個体と、5月に最も多くなりました。

図1に5月の地点別の分布密度を示しました。マダラ稚魚の分布密度はSt.5で11個体/1,000m<sup>2</sup>と最も高かったものの、2018年にSt.1で記録した525個体/1,000m<sup>2</sup>、2019年にSt.5で記録した19個体/1,000m<sup>2</sup>を下回りました。この他、St.3及びSt.7を除く各調査点で分布が確認されましたが、いずれも低い密度でした。また、地点別体長別の採捕個体数を表1に示しました。体長のピークはSt.1の56mmが最大でしたが、これは前年にSt.2およびSt.5で記録した42mmを大きく上回っていました。図2に平均分布密度の経年変化を示しました。2020年5月の平均分布密度は4年間で最も低い値となりました。

2019年漁期の陸奥湾のマダラ漁獲量は1,700トンを超え、近年では最多となっており、高い稚魚豊度が期待されたものの、青鵬丸による今年の調査では稚魚の濃密な分布が確認されませんでした。来年以降も調査を継続し、稚魚密度と資源量との関係を明らかにし、漁況予測出来るよう取り組んでいきます。

(資源管理部 松谷紀明)

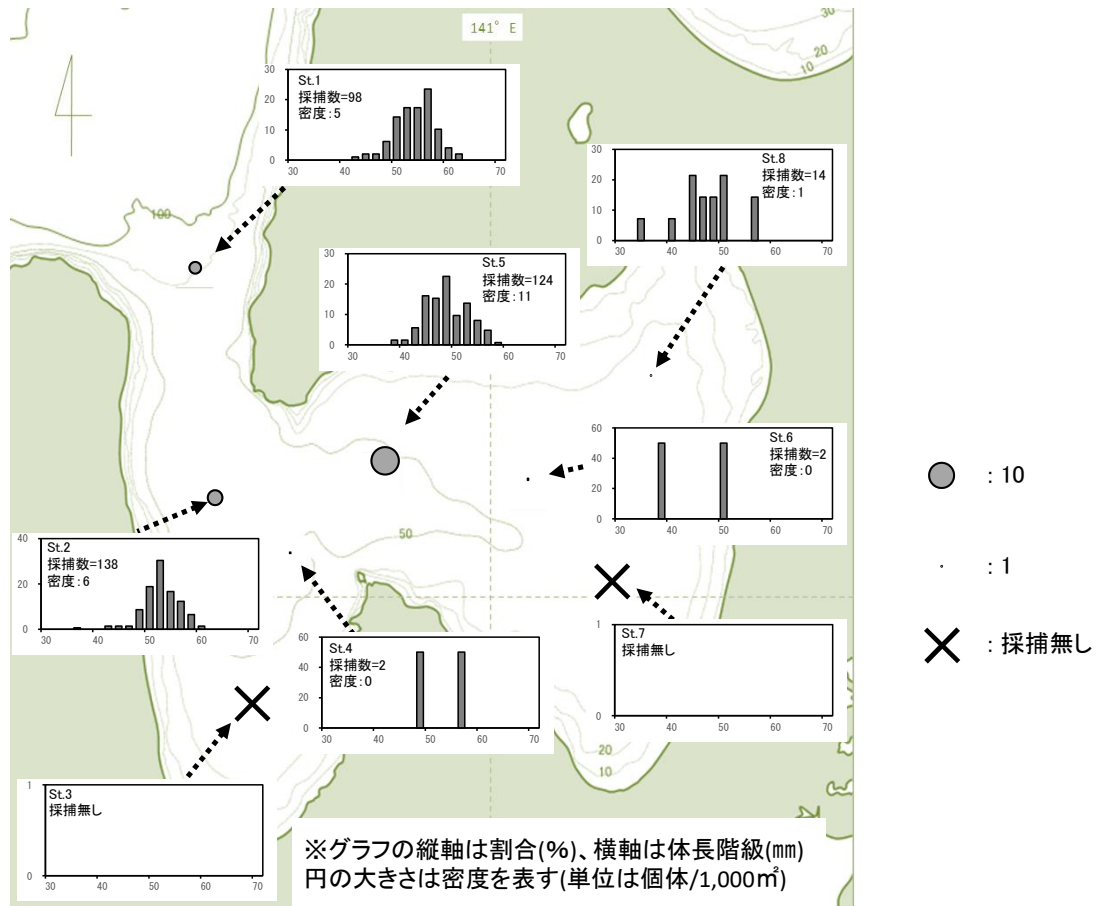


図1 陸奥湾マダラ稚魚分布密度と体長組成結果(2020年5月)

(試験船青鵬丸によるオッタートロール)

表1 地点別体長別採捕個体数(マダラ)

単位：個体

体長2mm	St. 1 N=98	St. 2 N=138	St. 3 N=0	St. 4 N=2	St. 5 N=124	St. 6 N=2	St. 7 N=0	St. 8 N=14
20								
22								
24								
26								
28								
30								
32								
34								1
36		1						
38					2	1		
40					2			1
42	1	2			7			
44	2	2			20			3
46	2	2			19			2
48	6	12		1	28			2
50	14	26			12	1		3
52	17	42			17			
54	17	23			10			
56	23	17		1	6			2
58	10	9			1			
60	4	2						
62	2							
64								
66								
68								
70								
72								
74								
計	98	138	0	2	124	2	0	14

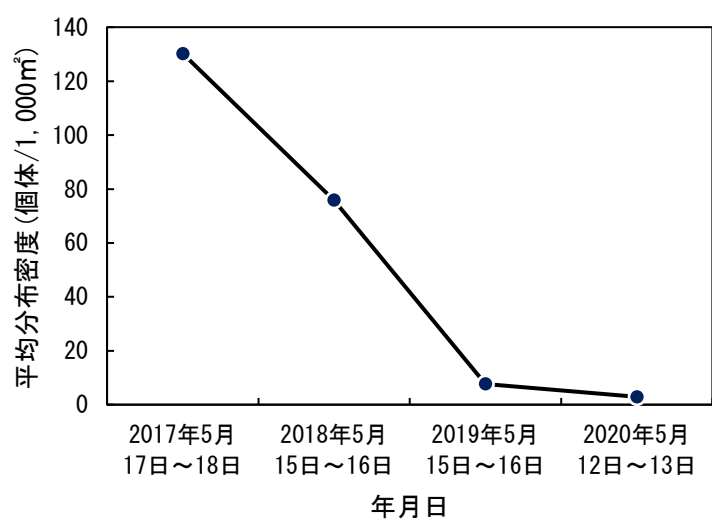


図2 陸奥湾マダラ稚魚平均分布密度の経年変化 (2017年~2020年)